



【前の晩に「行きたくないなあ」とごねていたのはいったいだれだったのでしょうか。娘は今朝、再開なった中学校へ、水筒をさげて元気に飛び出してきました。】

いつもとちがう新学期が始まりました。子どもたちは「まるで4月」の気分なのでしょう。無理ありません。学級の全員が顔を合わせるのは今日が初めてなのですから。「はやくみんなに会いたい」と連絡帳に書いている人がたくさんいました。1／3からはじまって1／2となり、きょうようやく全員がそろいました。クラス全員の相乗効果により、分散登校時とはちがったクラスの雰囲気になるのではないかと、楽しみなような、少し不安なような複雑な気持ちです。

田植えを終えたばかりの水田が、いつもと変わらぬ6月が巡ってきたと告げているようです。整列して風にそよぐ若い苗は、まるで新入生のように。人も稲も、水と太陽の恵みを受け大地に根を張って、すくすく伸びて欲しいものです。

陰暦6月を水無月（みなづき）と呼ぶのは、田んぼ以外の水がなくなるからでしょうか。水無月の語源には諸説あるようです。田へ引くほどに水量が十分な「水の月」、の「の」が「な」に転じたとか、いや太陽暦なら7月ごろで、文字通りの水のない時期となりやすいからとか・・・水が豊富なのか、足りないのか、困ったことに両極端の説があるようですが、どちらにしても学校は「水無し月」です。コロナウイルス感染予防のため、学校の冷水器が使えないので水筒は必需品です。



また、本日フェイスシールドが配布されました。再開された学校の教室は3密の象徴のようなもの、ソーシャルディスタンスなど望めそうにもありません。そこでフェイスシールドです。飛沫感染を防ぐためのものですが、全員が装着するとちょっと異様な光景ですね。

さて、上に書いた子どもは、前夜に「行きたくないなあ」とごねていましたが、一晚寝たら何事もなかったかのように登校していったそうです。でも、みなさん全員がそうであるとはとても思えません。人それぞれ感じ方や考え方がちがいます。朝、起きて「行きたくないなあ」と思って、二度寝をしてしまった人もいたのではないのでしょうか。どうか、そういう気持ちはわたしたち教員に伝えてください。伝えられなくてもいい、なんとなく気だるい気持ちを表情に浮かべてください。意味もなく「がんばれ」「がんばれ」とそれだけを言い続けるのはプロではありません。わたしたちは、ひとりでも多くの生徒の気持ちを受け止めたいと考えています。